

## ◆青谷町

## ① 地場産業の育成

## ○農業・漁業の振興

高齢化と後継者・担い手不足から耕作放棄地が増加しており、特に果樹園が深刻であり、認定農業者も平成17年度の14人をピークに現在では8人と減少傾向にあります。認定農業者への優遇施策を充実し、認定農業者を確保し、**地域農業の担い手として**農地の集積を図ることが耕作放棄地対策に必要となっています。

また、農業公社、農業生産法人、担い手などが行っている農作業受委託は、耕作放棄地対策に最も重要であるため継続した支援が必要です。

漁業を取り巻く環境は、魚価の下落、燃油高騰による経費の増加、漁協組合員数の減少など厳しい状況です。このような中、鳥取県漁業協同組合夏泊支所において平成26年度より定置網漁業\*が始まり、6人の新規就業者の雇用が確保され、漁獲量の増加と後継者の育成が期待されます。

本町には**肥育牛、繁殖牛合わせて約500頭**が飼育されており、鳥取いなば農協を通して鳥取和牛として主に神戸市場に出荷しています。一方、独自に東京市場に販路を確保している畜産農家もあります。ブランド力のある鳥取和牛オレイン55\*の発生頭数も増えており、行政も一体となって販路拡大に取り組む必要があります。

## ○商工業の振興

伝統工芸品である因州和紙生産は、販売額の低迷や後継者不足などが課題となっており、先行きが不透明な状況です。一方、新規就業を希望する声もあり、県と市の助成制度「伝統工芸等後継者育成支援事業」や技術習得のために「あおや和紙工房」の活用を検討するなど、後継者育成の体制づくりに取り組んでいく必要があります。また、あおや和紙工房を中心に、因州和紙の特徴を活かした2次製品の開発などを行い、販路拡大につなげていくことも必要です。

## ○観光の振興

本町への入込客数が年間**54,000人**（資料「**鳥取市主要観光施設等の入込客延べ人数（2016年）**」による）程度にとどまる中、山陰海岸ジオパーク\*のエリア拡大に伴い本町の観光資源の「鳴り砂」、「紙すき」、「不動滝」、「青谷上寺地遺跡」などに今後ますます注目が集まると期待されます。この機会を捉え、観光資源の有効活用に取り組み、ガイド養成など観光振興を図っていく必要があります。

## ② 青谷上寺地遺跡の利活用

平成22年度に本町の関係団体などをメンバーに「青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会」を立ち上げ、さまざまな活動を行っていますが、「青谷上寺地遺跡展示館」の入館者数は減少傾向です。

今後平成31年度から青谷上寺地史跡公園整備が始まる予定です。出土遺物は全国的にも誇れるものであり、史跡公園整備により多くの集客が見込まれますが、多様な来場者のニーズ対応のためには、史跡公園運営に地域住民の参画を促す必要があります。

### ③ 中山間地域対策

本町には、豊かな自然、和紙、酒造りを始めとする伝統産業やおおや和紙工房、青谷上寺地遺跡展示館、おおや郷土館等の施設、まちづくり協議会や NPO などが組織されています。しかし、それぞれの資源や活動が連携し、地域振興やまちづくりに有効に機能しているとは言い難い現状があります。

そのような中で本町の新たな動きとして、地元食材を利用した生姜豆腐等の商品開発や食事処の開設、不動産をメインに周辺環境整備を行い地域資源に磨きをかける取組。有害鳥獣の解体処理施設を整備し、シビエ\*を本町の一つの資源として有効活用する取組など、新たな動きが生まれています。

地域の資源を再点検し、これらの資源を十分に活かしながら本町に人を呼び込み、定住促進につなげる取組が重要となっています。そして、行政（総合支所）も地域住民の意識を醸成していくことが重要であり、情報の発信、共有を通じて地域に仕掛けていく姿勢が必要です。

### ④ 青谷高等学校の存続

県人口や生徒数の減少に対応するため、統廃合を含めた高校のあり方について検討が始められています。青谷高等学校は、本町のにぎわいの創出や地域活性化の観点からも、青谷地域にとって必要な教育機関として認識を向上させる取組が重要となります。

「青谷高等学校が何故青谷地域に必要か。」という原点に立ち返り、かつて「卓球のまち青谷（昭和 60 年わかとり国体卓球競技会場）」、「卓球の青谷高校（インターハイ 30 回出場）」として名をはせた「卓球」を本町の資源として再認識し、地域を挙げて復活させることも、地域活性化につなげる一つの取組として重要です。

### ⑤ 地域福祉の充実

地域の住民組織と連携を図り、高齢者、障がいのある人、子ども達など全ての人が、安心・安全に暮らせるような施策を実施していくことが重要です。特に青谷町では、急速に少子高齢化が進んでおり、介護予防活動、介護が必要な高齢者やその家族への支援、地域で見守り支えるためのネットワークづくりなど、総合的な介護予防施策の推進に取り組むことが必要となります。

## ●めざす将来像

### だれもが住みつづけたいまち・住んでみたいいまち 青谷町

本町のコミュニティ機能の増進を図り、子どもから高齢者までだれもが憩うことのできる空間の創出やにぎわいの空間の創出を図ります。

また、歴史的資源・自然的資源・観光資源・農産物を含む地場産品・文化的資源などの地域資源を有効活用した取組を進めることで、住民が誇れるまち・魅力あるまちをめざし交流人口の拡大も図ります。

さらに、災害危険場所に対する危険防除対策の推進などにより、自然災害の防止に努めるとともに、道路空間の確保や河川整備など防災機能の強化を図ることで居住環境の改善を図ります。